

月影

平成十八年十二月一日(第十六号)

浄土宗西山禅林寺派

常林院

智者のふるまいを

せずして

ただ
只いっこうに

念佛すべし

法然上人「一枚起請文」より



法然上人が病症の床で、一枚起請文をしたためられたのは八十歳の時。たった一枚に記された短い文章に、浄土宗の念仏信仰のすべてを込められました。大往生を上げられたのは、その二日後。一月二十五日のことでした。「学問や知識を得ると、ついついそれをひけらかしたり、学者ぶったりしてしまいがちだが、そんなふるまいはせずに、ただひたすらに念仏を唱えるように。」と、弟子たちに向けての遺言でした。

「智者のふるまい・・・。」自身を省みると心当たりのあ

る言葉です。

法然上人八百回大遠忌お待ち受け法要

先日、十月十四日。

法然上人八百回大遠忌お待ち受け法要を当山にて厳修いたしました。

当日は、晴天に恵まれ、檀信徒四十七名、寺院関係二十四名の、たくさんの方に御参詣いただきました。皆様のお陰を持ちまして無事に滞りなく勤めることができました。誠に有り難うございました。

法然上人、善導大師、両座像修復完成

お待ち受け法要を迎えるにあたって、前号でお知らせいたしておりました、法然上人、善導大師両座像の修復が完成致しました。

本尊阿弥陀如来に続き、両上人も修復することができ、



一つ、また一つと、当山がより良くなっていくことに大変有難く思っております。



上人 然法



大師 導善

本堂前階段を新調

先日、本堂前の階段に白蟻がつき、一部が崩れ落ちました。

これを機に階段を新調することにしました。新調するにあたり、階段の踏み幅を広げ、手すりをつけたことにより、以前よりも上がり降りしやすくなりました。

あとがき

早いもので気がつけば、今年も残りわずかとなりました。

この一年も皆様には、当山の諸行事にご理解ご協力を賜りまして、誠に有り難うございました。来年もどうぞよろしくお願い致します。

